

CELLISSIMO

http://kobe-cello.com

チェロ一色になつた笠岡の秋 「1000人のチェロ・コンサートin岡山」



笠岡市市制施行50周年記念行事として企画された「2002笠岡チェロフェスティバル」が、去る10月5日と6日に繰り広げられました。
「チェロアンサンブルコンテスト」と「1000人のチェロ・コンサート」が行なわれた第1日目は朝から抜けるような青空。チェロを抱えて笠岡の練習会場に到着した我々を受付でまずさわやかに迎えてくれたのはボランティア高校生たちの笑顔でした。全員が揃って音を出すのは当日本番前の練習のみという「1000人のチェロ・コンサート」特有の(?)スタイルに戸惑う人、慣れた人、マイペースの人…。でもさすがに練習中ほどの人の表情も真剣そのものでした。昼食をはさんで行なわれた「アンサンブル大会」では5組がエント

リ。中には当日即席でチームを組んだ人たちもいましたが、優勝したのは神戸からの参加グループ「#&b」。この日のために合宿も行なったそう、その意気込みが感じられる見事なアンサンブルでした。
さて、いよいよ「1000人のチェロ・コンサート」の始まりです。遠く北海道から九州まで、10歳から73歳までの130名の参加チェリストが笠岡市民会館のステージに上がり、「ヒムスス」「チェロのためのレクイエム」など全8曲を演奏。130本のチェロから奏でられる深い音色が笠岡の街に響きわたりました。最後に、この日がちょうどお誕生日であった指揮者の紅純三郎先生に、ステージ上でバースデイケーキのプレゼント。温かなムードの中、無事に終了し、終演後の打ち上げにはなんと1000名が参加。日本に到着したばかりのマリア・クリーゲルご夫妻とニーナ・テイツヒマンも会場に姿を見せ、賑やかな宴会となりました。
第2日目にはそのマリア・クリーゲルによる「リサイタル」と「公開レッスン」。当日の曇天を吹き飛ばすかのような迫力のある音が会場いっぱいを含み込み、笠岡市民会館は前日同様、再びチェロ一色に染まっていました。
■参加者の声(抜粋)
初めての参加で、右も左もわからず参加しましたが、本当に感激でいっぱい、素晴らしい体験させていただきました。帰ってからまだまだ興奮が覚めず、日々メールが飛び交っており、(「#&b」の森田亜貴子)。
こんなに大勢のチェリストを見たことがな

data

『2002笠岡チェロフェスティバル』

■10.5 (土) 笠岡市民会館
＜アンサンブルコンテスト＞

☆第1位「#&b」(藤井昌弘、井上ほのか、森田亜貴子、松本修志、栗本安洋子、樋口真浩、岡寛、高嶋明子、鳴坂静子、竹内嘉浩、小田英夫) ♪チャイコフスキー：交響曲第5番より第2楽章
☆第2位「秋月・工藤・白沢・松本」(秋月真一郎、工藤早苗、白沢史子、松本巧) ♪赤とんぼ
☆第3位「広島じゃけん」(川内真理子、山中興隆、末松悦子、永山恭子) ♪中国地方の子守唄・夏の思い出

＜1000人のチェロコンサートin岡山＞
指揮 紅純三郎
曲目 鳥の歌 (パートトップ) / クレメンセル:ヒムスス/ゴルターマン:レジオーソ/紅純三郎編曲ふるさとの秋/フランク組曲ニ長調/三枝成章チェロのためのレクイエム/サン=サーンス:白鳥(アンコール)/鳥の歌(アンコール)

■10.6 (日) 笠岡市民会館
＜マリア・クリーゲルリサイタル＞
＜マリア・クリーゲルによる公開レッスン＞ ※次ページで詳しくご紹介



次は天童だあとハリキル「#&b」のみなさん。
私どもは、十分楽しませていただきましたが、高校生や地元の方々から遅くまでボランティアには頭の下がる思いがしました(神戸のつばね)。
2002笠岡チェロフェスティバル実行委員会事務局長・中村幸太郎さんより
2日間を通して、お客様の入りが少なかつたのが非常に残念で、自身力不足と自覚し、甘さを痛感させられました。しかし、このフェスティバルのために、北海道から九州までの全国各地から130名もの

かつたです。日本各地の人が集まって演奏するということ、いろんな意味で刺激を受けたよかったです(岡大オケの杉原陽一)。
関東からですと笠岡という町はとても遠く感じられ「今回は止めようかな?」とも考えましたが、やはり参加して良かったと思います(横浜市の岡本滋)。
今回のコンサートお疲れ様でした。思い出に残るコンサートとなりました。ありがとうございました(三重県の小川庸輔)。
私は誰よりも早く到着し、最後に(10月7日午後1時ごろ笠岡駅から列車に乗った)笠岡を発つたので、笠岡満喫賞でももらえらるでしょう(鎌倉のコーシユと山田光義)。
私も、十分楽しませていただきましたが、高校生や地元の方々から遅くまでボランティアには頭の下がる思いがしました(神戸のつばね)。
遠方からたくさんの方が演奏にいられて、本当によかつたと思います。ステージの右と左とではお互いの音が聞こえないようで、合わせるが大変かなと練習では思っていました。本番はうまくいったように思いますが、チェロだけの演奏というのは、初めての体験でしたが、雰囲気があつてもよかつたですね。ゆつたりとした曲が多かつたのは、チェロという楽器の特質からすると仕方ないこととも思いますが、中には早いテンポの曲があつてもよかつたかなとも感じました。最後の誕生日プレゼントのケーキにはびっくりしましたが、非常に嬉しかつたです。



マリア・クリーゲル リサイタル報告 事務局より

10.8 (火) 兵庫・神戸文化ホール中ホール
 鑑治本建二 (大阪府) 『JS/パッパ: 無伴奏チェロ組曲第一番よりアルマンド・クーラント・ジーク』
 ☆長瀬裕彦 (長野県) 『チャイコフスキー: ロココの主題による変奏曲よりヴァリエーション。〜』
 ☆池村佳子 (兵庫県) 『フレームス: チェロソナタ第二番より第一楽章』
 司会: 井上ほのか 通訳: 藤堂素子、ピアノ伴奏: 森下智子、武知明子

data
 調Op.1022/B.オア: カルメン幻想曲/ドビュッシー: ノクターンとスケルツォ/グリーグ: ソナタイ短調Op.36

「マリア・クリーゲル公開レッスン」
 10.6 (日) 岡山・笠岡市民会館 上田聖子 (福岡県) 『JS/パッパ: 無伴奏チェロ組曲第一番』
 ☆井伊 進 (岡山県) 『ベートーヴェン: モーツァルト (魔笛) 「愛を感じる男たちには」主題による7つの変奏曲』
 通訳: 藤堂素子

「マリア・クリーゲルリサイタル」
 10.6 (日) 岡山・笠岡市民会館 (主催: 笠岡市) / 10.7 (月) 福岡・コスメイト行橋文化ホール (ICES主催) / 10.9 (水) 兵庫・神戸文化ホール中ホール (ICES、神戸文化ホール共催) / 10.11 (金) 山形・天童市市民プラザ多目的ホール (天童市教育委員会、天童市市民プラザ共催) / 10.13 (日) 東京・第一生命ホール (ICES主催) / プログラム E.S. ツェル: ディケーション/ベートーヴェン: ソナタ二長



パリで開催される「ロストロポヴィチ・チェロコンクール」で81年に優勝し、日本においては未だなじみがないものの、欧米ではトップクラスのチェロ芸術家として活躍しているマリア・クリーゲル女史。そして、ニューヨークで生まれ育ち、ケルンを中心にソリストとしても活躍中のピアニスト、ニーナ・ティツヒマン女史。三年前からデュオを組んだ、この二人のアーティストによる日本公演が、10月6日の笠岡市(岡山)、7日の行橋市(福岡)、9日の神戸市、11日の天童市(山形)、そして13日の東京と全国5都市で行なわれました。聴衆の総動員数は約2100名。これらの公演において、お二人は実に丁寧に毎回を全力で演奏され、我々聴衆を大いに魅了してくれました。

すべての聴衆がまったく安心して聴くことのできるマリアの正確無比な音程は、親指奏法においても揺らぎのない安定したものでした。音楽を実に大きくとらえ、ナイーブな叙情的部分なども心を揺らすように歌い上げ、数々の超絶技巧部分も何の苦もなくリラックして弾きこなすのでした。真の芸術家、あのマリア・クリーゲルだからこそ成し得る素晴らしい演奏。実際にお聴きになった皆様には言うまでもありませんが、筆舌に尽くしがたいチェロ芸術の極地の演奏には、ほとんどすべての聴衆が感動し、中には涙してその素晴らしいさに酔いしれた方もいらつしやるほどでした。ニーナ・ティツヒマンのピアノもスケールの大きな演奏法で、デュオの美しい音づくりに寄与されていました。

10月6日には笠岡で、8日には神戸で公開レッスンが行なわれ、計5名の受講生

がマリアの指導を受けました。聴講者は延べ150名強。マリアは会社員のごく普通のアマチュアチェリストにもプロの受講生にもレベルに応じた的確な指導をされ、受講生全員が彼女とともに感激・感動の時間を過ごしました。アマチュアへのこのような巨匠の公開レッスンもNPO国際チェロアンサンブル協会だからこそ実現した企画です。今回の主催公演は多くの方々に感動をもたらしたことに留まらず、マリア・クリーゲルというワールドクラスのアーティストから当NPO国際チェロアンサンブル協会が大きな信頼を得られたということも、当協会にとって大きな収穫となりました。

最後に、彼女たちの公演が無事に行なわれるように各地で主催をお引き受けくださいました石岡理事、中村さん、白沢理事、柏木理事、増川理事の皆様には格別の感謝と御礼を申し上げます。また、それらを陰に日向に支えてくださいました各地のボランティアスタッフの皆様、各地域理事の皆様にもお忙しい中、お力添えくださり、御礼を申し上げます。皆様方、すべてのご協力がマリア・クリーゲルの初めての日本ツアーを成功に導きました。本当にありがとうございます。

NPO国際チェロアンサンブル協会

理事長 松本巧



(上) 東京公演後の打ち上げパーティ。(左) 東京公演では帯奏を画家の古田演中がマリアのスケッチ

Information

〒994-0034山形県天童市本町1-1-2 「パレット」天童市市民プラザ
 tel.023-654-6200 fax.023-654-6201

concert

☆ クラウディウス・ポップ
 リサイタル (ICES主催) 報告

Weinsheimer氏ご推薦、ベルリン音楽大学でゲリンガスに師事している弱冠20歳のクラウディウス・ポップのリサイタル(ピアノ: 藤巻優子)が、9月19日(木)、大阪のザ・フェニックスホールにはほぼ満員の聴衆(約300名)を集めて行なわれました。彼の若年でありながら卓越した技巧に聴衆は酔いしれ、終演後のサイン会にも長い列ができました。観客動員は主に関西電力が行ない、ポップへの謝礼金その他を精算しました。剰余金、約5万円が当協会に寄贈されます。

☆ ミュンヘンフィルハーモニー

12人のチェリスト来日予定
 公演延期となっていましたICES主催『ミュ

ンヘンフィルハーモニー12人のチェリスト』コンサートツアーが、2004年7月に行なわれることが決定。昨夏の『第1回神戸国際チェロフェスティバル』にマエストロのお一人として参加されたシュテファン・ハークさんをリーダーとするグループが全国10か所で美しいチェロアンサンブルナンバーを奏でてくれます。

理事会より

☆ 『Cellissimo Community』
 のお知らせ

神戸で『Cellissimo Community』をフェリシモ社と共同で実験的に立ち上げます。これは2005年のICCに向けて「これからチェロを習う方」に地域が一体となって楽器、先生、レッスンの場を提供するものです。つまり地域全体で「これからチェロを習う方」の掘り起こしをするというもの。楽器とそのメンテナンス 先生の認識は当協会のネットワークを使って集めます。レッスン料の個人負担は目標の半分。それに相応

した金額が同社の基金から当協会へ奨励金として還流されます。神戸の街全体が2005年のICCに向けて「チェリストを輩出し、外からもお迎えする」、そんな『Cellissimo Community』の運動です。詳しくは次号で。

☆ 着任しました!

待望の神戸事務局新職員が8月1日に着任しました。これまで事務処理などが遅れ、さまざまな面で、会員の皆様にご迷惑をおかけしましたが、今後はスムーズに運ぶことと思っております。

～このたび縁あって事務局に着任しました植村公裕と申します。公裕と書いてマサヒロと読みます。以前はシステムエンジニアをやっていたので、データやスケジュールの管理などは得意分野ですが、音楽やコンサートの知識はまだまだ乏しい限りです。がんばりますので、今後ともどうぞよろしくお願ひします。



Viva! Maria!



(右) 岡山公演のマリア。その素晴らしいサウンドは誰の心にも深い感銘を与えた。
(左) 二人揃って着物を着ておはしゃぎ。



ではないでしょうか。また、その曲をどんな風に弾きたいかを自分なりに追究すれば、技術が完

壁でなくても、アマチュアの音楽が感動を与えることもあります。これは音楽ならではの特技です。アマチュアのお医者さんごめいかりたくないし、アマチュアの木工さんに家を建ててもらおうとは思いませんが、演奏に関してはそれがあり得るのです。

Q.日本の印象はいかがでしたか?

学生たちから「日本人は機械のように動く、あまり心を開かない」という話を聞いていたので、実はそれほど今回のツアーに期待はしていませんでした。ところがそれは全然違いました。みゆさん、初めて会ったとは思えないほど親切で、明るく接してくださいましたから。(ちなみにダンナ様も、食わず嫌だった刺身の大ファンになられたそうです)。

Q.クリーゲルさんの演奏は、ダイナミックや情感的というより、微妙なニュアンスや柔らかい音が魅力的ですね。

今はダイナミックで弾くことが流行りの感がありますが、私は音のニュアンスや色彩を大切にしています。生徒にも「mf以下で弾く練習をしなさい」と言っているんです。そうしないと音のニュアンスのヴァリエーションを増やすことができませんから。

インタビュー通訳: (No.010246・坂下明子)

interview

Q.今回の日本ツアー(5都市)はいかがでしたか?

みなさんの準備と運営のすばらしさにびっくりしています。確かにコンサート・エージェンシーなら企画も運営も完璧にこなしてくれます。でも、今回のように「心ごもった」ツアーは初めての経験です。どの都市でも温かいもてなしとおいしい料理で迎えていただきました。ヨーロッパではまず、あり得ないことですね。

Q.公開レッスンはどのような感想を?

セミプロとアマチュアにレッスンをしましたが、それぞれのレベルなりにみんな努力されていると思います。驚いたのは、アマチュアの方が多くの聴衆の前でレッスンを受かれたことです。とても要領のいることですから。私は興味でデモをしますが、大勢の前でボリス・ベッカーのレッスンを受けるなんて恥ずかしくて…。

Q.ICES会員の多くは大学生や社会人など大人になってからチェロを始めたアマチュア・チェリストです。上達するためにアドバイスなどがありましたらお願いします。

「やる気」が大切だと思います。人と比べたり「あれができない、これもできない」と思わないでください。まず自分なりの目標をたてると思います。A線のハイ・ポジションを確実にとらえる、第4ポジションをマスターするなど、各自のレベルに合わせて小さなもので構いません。それが達成できたら、さらなる目標をたてるのです。あくまでもマイペースで、楽しみながら続けていくのがコツ

M.クリーゲル先生の

公開レッスンを受講して

マリア・クリーゲル先生の音楽に魅せられてもう何年たったでしょうか?何気なく買った1枚のCDに感動し、「世界にはまだこんなにも素晴らしいチェリストがいるんだ!」と驚きました。1枚、また1枚とCDが増えていくたびに、今回の来日を心待ちにしていました。しかもレッスンを受ける



ことができるなんて、まるで夢のようです。私はアマチュアで、プロを目指す青年でもありません。

バッハの『無伴奏チェロ組曲・第一番』を弾いたのですが、こんな私にも丁寧にわかりやすく教えていただきました。正しく弾けば楽器の鳴ること、鳴ること…。ヴィヴァートのかけ方、弓の置き方、重みの乗せ方、そのほか新しい発見がたくさんありました。私の拙い演奏にも「もっと肩の力を抜いて」「大切なのはリラックス!」「Wonderful!」「Beautiful!」など、その言葉のあたたかさ、自分の音がどんどん変わっていくのが実感できました。力強くてひやかで美しい音色、そして優しい笑顔。マリア・クリーゲルは私の想像していたおりのチェリストでした。夢のようなレッスン、本当にありがとうございました。

(No.010083・鍛冶本建二)



思い出に残るレッスンでした。

event

☆全米チェロ協会主催

「第7回全米チェロ大会」へのお誘い

NPO国際チェロアンサンブル協会では下記の要領で「第7回全米チェロ大会」へ公式参加することを決定しています。詳細スケジュールはまだ全米チェロ協会から届いていませんが、会員の皆様には他に先駆けてお知らせさせていただきます(グランドキャニオン観光オプションツアーもあります)。

〈日程〉2003年5月16日(金)~22日(木)の予定(6泊7日)

〈場所〉アメリカアリゾナ州立大学構内

〈費用〉航空券・宿泊費(6泊7日)を含んで会員は20万円前後。非会員は22万円前後。グランドキャニオンへのオプションツアー交通費・宿泊費は別料金。

〈内容〉第7回全米チェロ大会への参加、アンサンブル演奏。

ご家族同伴可能。チェリストとして参加の場合は協会員であることが必要。楽器は現

地で借ります。持っていく方はご相談ください。同大会にはロストロポーヴィチ氏が4日間一緒に滞在する予定。詳細決定は後日になりますが、ヨーヨー・マ氏他の日本でもお馴染みのチェリストも参画される予定です。定員になり次第締め切り。30~40名の予定。〈お問い合わせ〉ICES事務局tel.078-392-1194

☆参加者募集

第18回国民文化祭やまがた2003協賛

愛と平和を祈念して1000人のチェロ・コンサート・インやまがた(天童公演)

「1000人のチェロ・コンサート」が久は7月に東北の地・山形へ。いよいよ参加申し込みがスタートしましたが、今回は先着80名で締め切りますのでお早めに!

〈日時〉(注:練習・本番2日間セット参加)

2003年7月13日(日)14:00開演

練習

12日(土)午後および夜(全体リハーサル)

13日(日)10:00~12:00(ゲネプロ)

分奏練習

I C E S

上記以外3~5回以上、天童および各地区

(会場)天童市市民文化会館大ホール

(指揮者)升田俊樹(前東京交

響楽団チェリスト)写真

(コンサートマスター)石川祐治

(99年日本音楽コンクール第1

位・黒柳賞受賞)

(予定曲目)

サン＝サーンス:白鳥(ソロのみ) / モーツァルト:アヴェベルム / コルプス / シュトラウス:ピ

チカートポレカ / フィッツェンハーゲン:アヴェ

マリア / フンク:組曲二長調より / 最上川舟歌

(山形県民謡) / バッハ:アリア / ヴィラロボス:

ブラジル風 / ヴァン・No.5(ソプラノ口と選抜

メンバー) / クレンゲル:賛歌カザルス:鳥の歌

(アンコール)

〈出演参加費〉2,000円

〈主催〉1000人のチェロ・コンサート・イン

やまがた(天童公演)実行委員会、NPO国

際チェロアンサンブル協会(株)スポーツ

クラブ天童・天童市市民プラザ

(お申し込み・お問い合わせ先)



活動レポート

チェロ全員による合奏、高知で初めてクレメンゲルのサウンドが響き、大感激の一瞬です。



2002 7.21 高知Cello・NHスタジオバル

去る7月21日、高知で初めて「Ensemble」が鳴り響きました。この催しは本誌創刊号にも掲載いただき、お問い合わせも多くいただきました。漢字・アルファベット・カタカナ・ひらがなをすべて使用した大げさなタイトルであり、「ええんかいなあ？」という不安がいつも去来していましたが、ICESの松本様をはじめ、10府県から27名の参加を仰ぎ、無事に終了いたしました。ありがとうございました。

これをご覧の皆様はチェロ・アンサンブルに酔われているものと思います。私自身「1000人のチェロ・コンサート」をきっかけに「はまって」しまっています。しかしチェロ不毛の地とも思える高知で、そのような演奏体験はなかなか得られません。このたびの催しは当地に刺激を与えてくださいましたし、またこれをきっかけとして、高知をはじめ近隣のチェロ奏者の交流がより深まったと思っています。なにより人の持つ力の大きさ、偉大さ、そしてそれが合わさった時、足し算では計り得ないエネルギーが生まれるものだというのを実感しました。さらにその原動力は言うまでもなく音楽の素晴らしさであるということ、いま改めて認識しているところです。

※演奏会の模様は朝日の高知新聞および同社のウェブサイトに掲載されました。URLは <http://www.kochinews.co.jp/0207/020722headline12.htm#shimen12>。

〈No.01024・戒能哲雄〉

2002 夏 Thomas-Mtuner

夏の夏、Thomas-Mtunerの唯一の日本人弟子であるWeinzer朝恵先生に豊田と名古屋で、少人数のホームセミナーを開いていた chanceに恵まれました。以前、1000人

のチェロでも紹介された、著者Thomas MtunerのCello Playing Easter「より自然なチェロ奏法」の監修にあたったWeinzer朝恵先生です。

人間の生理学的な筋肉の動きに合った奏法で、自然で楽な左右の手の運びを教わりました。頭では理解できても身につけるには難しいことですが、音の響きが美しく変化するように実感しました。今後もしも頭においてより美しく弾きたい気持ちでいっぱいです。



一回のセミナーは、休憩を入れて5時間にも渡り、一人ずつ先生の丁寧なチェックがありました。それを一度受けたのです。最後の30分は、4パートに分けたコラールや、「鳥の歌」などのアンサンブルで、いつまでもチェロに浸っていたい思いの楽しい時間でした。先生は、「このテクニックが多くなる」と

って、いずれ何かのヒントになっていけば嬉しい」とおっしゃっていました。また、Thomas Mtunerの日本でのセミナーが実現することを望んでおられます。著者の生の音や感覚を味わうことができれば、この本の理解がますます深まることと信じます。実現できたら素敵ですね(写真左が朝恵先生です)。

〈No.01008・重徳道子〉

2002 8.2-4 全国アマチュアオーケストラ フェスティバル新潟

アマチュアオーケストラフェスティバル(JAO)はトヨタ自動車株式会社を中心になって創られた芸術文化支援の社団法人日本アマチュア・オーケストラ連盟のイベントです。今年には新潟で8/2〜4まで開催された第30回の記念大会。新潟交響楽団の皆さんの暖かい応援とお手伝いのおかげで、楽しく演奏に没頭



させていただきました。一般社会人の曲目は、ラウエル・「タフニスとクロー」第2組曲 指揮/下野竜也、コンマス/三浦章広、サンバ・サン・交響曲3番「オルガン付き」指揮/秋山和慶、コンマス/徳永二男。私はサンバ・インスの方に参加

させていただきました。参加者は全国から約350人。その内、チェロ弾きは約30人、新潟響、特別参加のカナタユースオケの人も加えれば約60名近くにもなりました。前夜祭のレセプション会場では、チェロ弾き約40名がヴィラ・ロボスの「ブラジル風パッサー」(1000人のチェロでおなじみの曲)を止まらずに無事演奏し、拍手喝采を受けました。

肝心のオケの方は、前々日・前日の練習の成果が実り、全員の気合いと集中力、なんといっても指揮者の圧倒的なオーラでかなりまとまった演奏ができました。弦のセクション練習では徳永二男さんによる弾き方の指導、音の出し方、音楽の方向性など、目の前で実際に音を出していただき、納得し、感嘆もいたしました。こんな機会がなければ絶対に味わうことができないでしょう。音楽の素晴らしさと音の深みを堪能させていただきました。

また、全国のチェロ弾きとお会いできたり、再会できたり、懇親会・飲み会でのちよっと羽目を外して飲み過ぎたりも、いい思い出です。1000人のチェロで知り合った方々も何人か参加されており、懐かしさ感慨深く過ごしました。これからもできる限り参加して思っ存分楽しみたいと思っています。

〈No.010091・竹内嘉浩〉

2002 8.2-4 オホーツク国際音楽セミナー in 女満別

今年、第20回となるオホーツク国際音楽セミナーが8月2〜4日まで3日間、北海道の女満別町で開催されました。主催者である教育委員会の方や小林研一郎先生のお話で、今年も初日の開講式で、皆気合いを入れられました。

3回目の参加となるチェロ講座の講師は、チェコ・フィルの首席奏者、およびコンサートマスターであるフランティšek・ホスト先生。チェロ講座の参加者はアマチュアからセミプロまで例年5人くらいです。今年は世田谷フィルハーモニーの方も数名参加したため、ホスト先生はほとんど休憩もとれないにもかかわらず、例年同様、真摯な対応、的確なアドバイスで適宜ご自分でも弾いてくださいました。一回のプライベートレッスンは約30分で1日2〜3回レッスンが回ってくるため、中身の濃い集中的なレッスンを受けることができますが、この会場には体育館や空いた部屋を見つけ、各々さうとうというチェロ三昧の3日間です。小生は「ソナタ5番」第4楽章までを、技術的な面や音楽的な内容までドイツ語と英語で教えていただきました。



ドヴォルークを熱演された直後のホスト先生(中央)を囲んで後列で立っているのが筆者。

ホスト先生は素晴らしい人柄と、演奏者としてののみならず、教育者としての資質に長けており、その先生を慕って全国から集まった受講生は字んだことを何よりのおみやげとして持ち帰り、またの再会を誓って、はるか北のオホーツクから地元に戻りました。

〈No.010095・竹内幸美(ゆきよ)〉

information board

掲 示 板

lesson & lecture

『デュオハヤシ 豊田レクチャーコンサート』

■11/16 (土) 15:00開演

〈第1回デュオの聴き方入門
～ベートーヴェンのソナタを中心に〉

■11/19 (日) 15:00開演

〈第2回デュオの楽しみ〉

林 俊昭 (Vc) 林由香子 (Pf)

豊田市コンサートホール小ホール 1,500円 豊田市

コンサートホール能楽堂友の会

tel.0565-35-8200

鈴木秀美マスタークラス 『第13回ガット・カフェ』

『ガット・カフェ』は、鈴木秀美さんが新宿オペラ
シティ内の近江楽堂などで一年に4～5回行ってい
るマスタークラス+ミニ・コンサートの催し。演奏
法だけでなく弦や楽器、楽譜などの情報交換の場
でもあります。受講のみならず、聴講・コンサート
だけの参加も可能。第13回は2003年1月18日(土)の
予定ですが、詳細は下記ホームページにて。

http://www.hdm-olc.com/hdm/gutcafe/index.html

メンバー募集

神戸アンサンブルソロイスト

第1・3日曜日 13:30～ 神戸市東灘区民センタ
ー (JR住吉駅下車すぐ) で練習

30歳前後のメンバーが多い30人強の室内楽オーケ
ストラです。ほのぼのとしていて楽しいですよ。

神戸アンサンブルソロイスト事務局 高橋義人

〒651-1205 神戸市北区花山台5-10

tel&fax. 078-583-6662

e-mail: y_taka@kh.rim.or.jp

詳細は当団のウェブをご参照してください。

http://orchestra.musicinfo.co.jp/~soloists/

〈No.010242・山西史子〉

売ります

ドイツ製弓とカーボン弓

①1999年に38万円で購入したドイツ製弓

"MICHAEL MÖNIG"

②2001年に17万円で購入のカーボン弓 "ARCAS"

問い合わせは郵便かe-mailで村上美樹さんまで。

〒243-0422 神奈川県海老名市新田174

小田急コアロード海老名 401号室

e-mail: chcro@spo.dnsalias.com

〈No.010192・村上美樹〉

チェロ、弓、ハードケース

①ドイツ製チェロ15万円ぐらいで

②TAKASU弓 (新品同様) 3万円ぐらいで

③ハードケースHISCOXホワイト (新品同様)

52,000円ぐらいで

お問い合わせは、tel & fax.0467-86-8859

茅ヶ崎市の山中恵さんまで。

〈No.010016・山中恵〉

concert

『ジャン＝ギアン・ケラス3日連続演奏会「天・
地・人」』

3公演ともすみだトリフォニーホール (東京)

■11/15 (金) 19:00開演

J.S.バッハ無伴奏チェロ組曲第1番/リンドベル:イス
トローク/コダーイ 無伴奏チェロ・ソナタ

■11/16 (土) 18:00開演

J.S.バッハ無伴奏チェロ組曲第3番/今井慎太郎:チ
ェリストのための「マテリアル」(世界初演)/カサ
ド無伴奏チェロ組曲 他

■11/17 (日) 14:00開演

J.S.バッハ無伴奏チェロ組曲第5番/デュティユー:ザ
ツァーの名による3つのストローフェ/ブリテン無伴
奏チェロ組曲第3番 他

各日ともS5,000～B3,000

(Sセット2回8,000、3回10,000)

日本交響楽協会 tel.03-5721-4621

『堤剛 無伴奏チェロの夕べ』

■11/29 (金) 19:00開演

イシハラホール (大阪)

J.S.バッハ無伴奏チェロ組曲第1番、第3番/カサド:
無伴奏チェロ組曲クラム無伴奏チェロソナタ

4,000円 (全席指定)

イシハラホール tel.06-6444-5875

■11/30 (土) 14:30開演

知立リリオ・コンサートホール (愛知)

ベートーヴェン:モーツァルトの「魔笛」の「恋を知
る男たちは」の主題による7つの変奏曲/S.バッハ無
伴奏チェロ組曲第5番/短調ブラームス:チェロ・ソ
ナタ第1番/短調ラヴェル:ヴォカリーズ→Vバネラ

形式のエチュード/ヒナスター:バンベアーナ第3番

4,500 (自由席)

知立リリオ・コンサートホール

tel.0566-85-1133

■12/2 (月) 19:00開演

サントリーホール (東京)

ラヴェル:ヴァイオリンとチェロのためのソナタ/コダ
ーイ:二重奏曲 他

徳永二男 (ヴァイオリン)

4,000円 (全席指定) 学生1,000円

サントリーホール tel.03-3584-9999

『オーケストラ・リベラ・クラシカ』

■11/27 (水) 18:30開演

長岡リリックホール (新潟)

■11/29 (金) 19:00開演

浜離宮朝日ホール (東京)

ハイドン:交響曲第15番、第44番「悲しみ」

チェロ協奏曲第1番

4,500円 (自由席) 鈴木秀美指揮

長岡市芸術文化振興財団 tel.0258-29-7715

オーケストラ・リベラ・クラシカ事務局

tel.045-545-9234

『向山佳絵子と仲間たち』

■11/29 (金) 19:00開演 JTアートホール (東京)

ファリャ:クラヴサン協奏曲/ポッケリーニ:ギター協
奏曲第4番/ピアソラ:ブエノスアイレスの冬、他

■2003.1/23 (木) 19:00開演JTアートホール (東京)

JTアートホール tel.03-5572-4945

『森のサロンコンサート』

■12/18 (水) 14:00開演 (うたはともだち)

ヘンデル:オンブラ・マイ・フ/きよしこの夜、他
山本祐ノ介 (チェロ) 小山西京子 (ピアノ) 松川由
美 (ソプラノ)

■2003.2/19 (水) 14:00開演

〈山本祐ノ介ファンタスティック・チェロ〉

ビートルズ:イエスタデイ、他

山本祐ノ介 (チェロ) 小山西京子 (ピアノ)

両コンサートとも松戸市文化会館 (千葉)

3,500円 (ドリンク、ケーキ付)

松戸市文化会館 tel.047-384-3331

『ピーター・ウィスベルウエイリサイタル』

■12/8 (日) 15:00開演 鎌倉芸術館 (神奈川県)

【曲目】J.S.バッハ無伴奏チェロ組曲第1番/ショス
タコーヴィツ:チェロとピアノのためのソナタ/ヨ
ハン:序奏と華麗なるホルネーズ 他

デヤン・ラツィック (ピアノ)

A4,000円 B3,000円

鎌倉芸術館 tel.0467-48-4500

『東京都交響楽団 定期演奏会』

■12/19 (木) 19:00開演 東京文化会館 (東京)

■12/20 (金) 19:00開演 サントリーホール (東京)

佐渡裕 (指揮)

デニス・シャボヴァーロフ (チェロ)

ドヴォルザーク:チェロ協奏曲/短調など

19日 S6,000円～Ex1,500円

20日 S6,000～C3,000

都響ガイド tel.03-3822-0727

【託児サービス】Mother's tel.0120-788-222

『藤原真理グランド・プロジェクト2002 in 滋賀』

■12/22 (日) 16:00開演 しがきんホール (滋賀)

J.S.バッハ無伴奏チェロ組曲第2番、第5番、第6番

一般4,000円 学生2,000円

しがきん経済文化センター tel.077-526-0005

『ブラハ交響楽団』

ズデニク・マーカル (指揮)

長谷川陽子 (チェロ)

スメタナ 交響詩「わが祖国」よりモルダウ

ドヴォルザーク:チェロ協奏曲

交響曲第9番「新世界より」

■2003.1/15 (水) 19:00開演

札幌コンサートホール (札幌)

S13,000円～D5,000円

オフィス・ワン tel.011-612-8696

■2003.1/19 (日) 14:00開演

大阪シンフォニーホール (大阪)

A10,000円～D4,000円

朝日放送 tel.06-6453-6000

■2003.1/21 (火) 19:00開演

サントリーホール (東京)

S12,000円～学生3,000円

ジャパン・アーツ tel.03-3499-9990

〈No.010138・柏木 武春〉

地方自慢リレートーク 第2回 福岡県行橋市の巻

行橋市は福岡県北東部に位置し、北西、南西部にかけて国定公園に指定されているカルスト地形の平尾台、山伏で有名な英彦山系の山があり、これらから今川、祓川、長峡川が周防灘に注いでいます。市域の大半には豊かな京都（みやこ）平野が広がり、穏やかな気候のため、稲作や各種野菜や果物栽培も盛んです。

数ある特産物の中でも自慢できるのは「牡蠣」。市の沖合い、約4kmで養殖される牡蠣は、河川から栄養分の多い植物性プランクトンが流れ込むため成長が早く、大粒で味が良いと評判で

を安価で購入することができま

す。「海の幸」だけでなく「山の幸」も負けないくらいに豊富。温暖な気候を利用して梨・桃・葡萄などが栽培されており、中でも無花果（いちじく）は「博多蓬菜」の名で関西や東京方面にも出荷されています。その無花果をふんだんに使って作られた手作りジャムも美味です。

この辺りは京都（みやこ）地域と呼ばれることもありですが、古くは美夜古（みやこ）と呼ばれており、多くの史跡が点在しています。市南部にある御所ヶ谷龍神石・中門は、約130

は、ぜひお立ち寄りください。

最後になりましたが、さる10月7日（月）19時より市内・コズメイト行橋文化ホールにて、「マリア・クリーゲル チェロリサイタル」を開催しましたところ、満席に近い400名を超える方にご来場いただき、盛況のうちにご来場いただき、感謝の言葉を申し上げます。

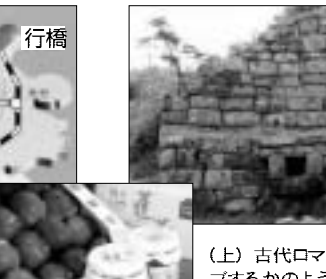
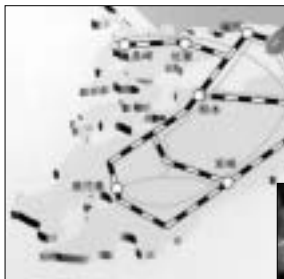
クリーゲル・ティッシマン両氏の豊かな音楽性と素晴らしい演奏に、奏者と聴衆が一体となり楽しむことができた素晴らしい演奏会となりました。このような素晴らしいリサイタルが当市にて開催できたことを嬉しく感じるとともに、松本理事長はじめ、事務局関係各位の方々に、この場を借りて深く御礼申し上げます。



宮城県気仙沼と同じように、川が豊富な運ぶ「養鳥の一粒牡蠣」。つまり、山が海を育てているのですね。

す。11月中旬〜3月にかけて出荷、これからがまさに《旬》です。（問い合わせ：養鳥漁港 0930・23・1040）
また、牡蠣のほかに魚介類が豊富で、毎週日曜日に魚市場で行なわれる夕方市にて、キヌ貝・マテ貝、シャコや車えび、ワタリガニなど、新鮮な海の幸

0年前に築かれた物で、全長3kmにわたって土塁と花崗岩の切石が並んでいる様子は、まさに圧巻。優れた土木技術で築かれた巨大な石の城壁を持つ中門からは、古代の人々の勇ましい声が聞こえてくるようです。谷川の水を流すための排水溝も設けられていました。



（上）古代ローマンヘタイムスリッパのような御所ヶ谷龍神石。（左）医療効果の高いいちじくを使った博多蓬菜ジャム。

とじっけ gourmet vol.2

ケーヴェリッヒ・リースリング ハルプトロッケンQba 2000

初回が純米吟醸酒なら次はワイン…とアルコール漬けの事務局ですが、今回選んだのは、俗にベートーヴェンワインと呼ばれている『ケーヴェリッヒ・リースリング ハルプトロッケン』。ベートーヴェンが無類のワイン好きであったことはよく知られていますが、実は彼の母マリアの実家はこのワインの蔵元。ドイツ・モーゼル川沿いのケーヴェリッヒ村にある小さな醸造所で、現在も親族であるオーナー・レグネリ氏の家族と季節労働者だけで丁寧なワイン造りが行なわれています。ワインラベルに描かれているのももちろん偉大な作曲家ベートーヴェン。ドイツワインといえば甘口のイメージが強いのですが、近年は優秀な中辛口も多いと聞き、そちらを試してみました。リースリング種独特の酸味もほんのりとした甘さも適度で、カジュアルなQbaクラスとしてはクセのないまずまずの味わい。もう少しキリッと冷やせば、よりシャープな口当たりになったかもしれません。年末は第九を聴きながら、ぜひベートーヴェンワインを楽しんでみてください。

■『Riesling Halbtrocken Qba 2000』 中辛口 ¥1650
酒販店グループ『ESPOA』にて販売、ネット販売も多数あり。

音楽の質問箱 Q&A ②

8月に行なった「弦に関するアンケート」には多数のご協力をいただき、ありがとうございました。その結果を簡単にまとめてみました。

A：使用弦の組み合わせ

1. A・D ヤーガー G・C スピロコア
2. A・D ラーセン G・C ヤーガー
3. A・D ラーセン G・C スピロコア

やはり一般的といわれる組み合わせが目立って多かったようです。

ちなみにヨーヨー・マのモニターニヤも1の組み合わせ。マリア・クリーゲルのストラディヴァリウスはA・D・Gにラーセンリスト、CがスピロコアのWolframでした。

B：選んだ理由

「先生に奨められて」、「楽器店で評判を聞いて」が大多数。でも実際には評判通りの音が出なかったりもしますよね。「評判はあくまでも他人の評判であり自分の楽器に試してみないと苦しいとは何ともいえない。お金はかかるが試すしかない」（薄井秀夫さん）

C：使用感

ヤーガーには音の柔らかさや共鳴を、ラーセンやラーセンリストには音の艶や明るさを求めて選んだという方が多かったようです。一方でラーセンには「1800年代の楽器に負担が大きい」（角谷輝彦さん）、「思ったよりも音がフィニッシュとしていた」（山中恵さん）という声も。「音の立ち上がりが良い」と評判のスピロコアには「不満の声は少ないようですが、指がしっかりしていないと音が効かぬ」、「製品によってバラつきがある」といった意見もありました。巻線では「スピロコアタングステンが力強い」（藤井直さん）「ヴォルフトーンが社外のようにタングステンの細いタイプ」（濱恵一さん）など。芯線に関してはガット弦に興味のある方が多く、4弦ともガット弦というS.U.さんは「ガットの中でもオイドクサより張力のあるオリブの方がよかつた」そうです。ただし、ガット弦は夏場の湿度に弱く、おかげでたまにキズ

（次号に続く）

CELLISSIMO

会員が所属する市民オーケストラやアンサンブル団体をご紹介します。

所属オケ紹介Vol.2

西播磨交響楽団

(兵庫県)

<http://www.geocities.co.jp/MusicHall/8084/>

創立●1996年2月24日
団員●45名(内Vc9名)
活動地域●兵庫県龍野市、揖保郡を中心に西播磨地域全域
活動内容●定期演奏会年1回、団内発表会 年3~4回のほか学校コンサート、童謡コンクール」をはじめ各

地のイベント行事に参加
会費●月2000円(入団費10000円)
練習●毎日曜日18:00-21:00
お問い合わせ●事務局 小田英夫
tel. 0791-62-3433 fax. 0791-62-3434
e-mail: oda@memenet.or.jp

直近の演奏会~11月9日(土) 学校コンサート(兵庫県立播磨芸術学校体育館)
12月15日(日) 団内発表会(龍野赤とんぼ文化ホール)

夕焼け小焼けの 赤とんぼ
負われて見たのは いつの日か

童謡「赤とんぼ」の作詞者、詩人三木露風の生誕地である龍野市(兵庫県)は、1984年に「童謡の里」宣言を行ない、作曲家田宮直氏を会長とする(当時)日本童謡協会の全面的な協力を得て、数多くの童謡事業を進めてきました。1989年5月盛大に開催された「三木露風生誕100年祭」。そのメインコンサートである市内吹奏楽団と合唱団の合同演奏会に、指揮者として招かれた故山本直純氏とスタッフの一人であった龍野青年会議所(龍野JC)のメンバーとの間で、次のような話があつたのです。山本氏「この次に龍野へ来るときは、ぜひこの街のオーケストラを指揮してみたいね」JCメンバー「申し訳ありません。龍野にはオーケストラがないのです」

山本氏「何! 龍野は文化都市だと自分たちで言っていないから、アマチュアオーケストラもないのかね」

毎年10月に開催される「三木露風賞新しい童謡コンクール」を発案企画し、常に童謡事業の先頭に立って活動していると自負していたJCメンバーに、直純氏のこの一言は大きなショックでした。

「よし、ぜひ龍野の街に交響楽団を創ろう!」

一人のJCメンバーの胸に芽生えたこの決意が、やがて龍野JCによる「交響楽団設立」の動きに発展していくことになったのです。

しかし一口に交響楽団を創ると言っても、龍野市のように人口4万人そこそこの地方都市にとっては、並大抵のことではありません。交響楽団に必要な楽器は何か、またその楽器を演奏する人たちが、自分たちの街に一体どれだけの人が、さらには財政的に一体どれだけの費用がかかるのか、そんな議論が幾度



となく繰り返されました。そして実際に団員募集が始まると、当時JC会員でもあった私は、担当委員会メンバーと一緒に、地元ヴァイオリン教室の先生をはじめ何人もの音楽家のもとを巡りて協力をお願いし、また大学オケ時代の友人を誘ったり、あるいは他の大学オケOBの方々にも電話をかけて取り合ってもらいました。

そんな苦難の過程を経て、1996年2月、ついに龍野の街に「西播磨交響楽団」が産声を上げたのです。山本直純氏の一言から、実に7年の歳月が経っていました。名称は、龍野に限らず、より広い地域での活動を目指すために「西播磨」としました。交響楽団と呼ぶには、人数的にも技術的にも決して満足いく状態ではありませんでした。自分たちの街にオーケストラができたということは、何物にも代え難い喜びでした。

西播磨の各地から集まった団員たちは、年代も若く、これから新しいオケを自分たちの力で創り上げていこうという若さと気概が満ち溢れていました。設立から4か月後の6月には、早くも「ファミリーコンサート」を開催し、以来これまでに定期演奏会7回、ファミリーコンサート4回を開催してきました。また地域のさまざまな行事に参加したり、夏には学校コンサートをやるなど、小規模ながらも活発な活動を続けてきたのです。

私たちのオケの大きな特徴は、運営面では龍野JC

の、そして財政面ではCOBを中心に運営されている「後援会」の大きなサポートがあることです。常に人員的、資金的な悩みを抱えながらも、ここまでの活動を続けることができたのも、これらのサポートのおかげだと思っています。

また、楽器を始めて日が浅い人の入団を受け入れているのも、このオケの大きな特徴です。中には西播磨オケに入って初めてチェロやヴァイオリンに触れた人もいます。そんな人たちも、熱心に練習を重ね、演奏会の経験を積むことに上達し、今日の私たちの演奏を支えてくれています。



そして設立以来、特に弦楽器の人数不足が悩まされる中で、私が属するチェロパートは常に安定したメンバー数と団結力を誇っています。同じ兵庫県内ということもあり、「1000人のチェロ・コンサート」には、第1回と第2回のいずれも、当時のチェロメンバー全員が参加しています。

今年も「三木露風賞新しい童謡コンクール」で「赤とんぼ」を奏でる日を迎えました。音楽の楽しさや喜びを西播磨の人々に伝えていきたい、そんな願いを込めて、「赤とんぼ」の街につくられた私たちのオケにとって、10月は特別な季節なのです。

〈西播磨交響楽団事務局長〉 小田英夫

編集人的十々ヨミ雑音記

第2回 アマチュアの鏡、プロの鏡

いつものように書店に向かうと、音楽関連の書棚に空色の美しい本があった。表紙にはNEVER TOO LATEと魅力的な文字が踊っていて、しかもこれはチェロの本らしい。鮮やかな黄色の帯には「ヨーヨー・マ推薦」! さらに私を魅きつける。

墨文字で机の前にも貼って唱をいれたいくなるようなタイトル『ネヴァー・トゥー・レイト〜私のチェロ修業』(ジョン・ホルト著・春秋社)の著者は40歳になってチェロを始めたアメリカの教育家。「本書は自己学習についての本でもある」と前書きにあるように、試行錯誤の記録と発見やアマチュアアンサンブルの楽しみが素直に語られた書。その幾多の言葉には同時に人生のヒントのようなものも見え隠れしている。

音楽と語学の修得には似た部分があり、大人になってからでは難しいことも多いが、いずれもそれなりの楽しみ方が許される寛容なジャンル。この本を翻訳した松田りえ子さんのご主人も30

代でチェロを始め、『1000人のチェロ・コンサート』に参加されたのだそうだ。

そうしたスタンスとは対照的に、幼少時から正規の教育を始めてプロを育てる必要性を訴えて「子供のための音楽教室」運営に心血を注いだ齊藤秀雄氏のバイオグラフィー『嬉遊曲、鳴りやまず〜齊藤秀雄の生涯』(中丸美樹著・新潮社)も、文庫化を機会に再読。氏の激しい性格と音楽への情熱で全編埋め尽くされた、この本一冊で齊藤秀雄という人を深く知り得る緻密なレポートだともまたもや感心した。

この齊藤門下生の一人である堤剛さんの著書『チェロを生きる』(新潮社)の終章にはアマチュアチェリストへのエールとともにCOESについての記述もあるので一読を。

チェロ本三連発にはどれにも刺激を受ける。モグラのような宵っ張り編集生活を返上して練習時間を作り出さねば……。レベルの低い「私のチェロ修行」、まだまだトンネルの先は長そうだ。

〈No.010112・編集人たまたま〉



(私の愛聴盤)

〈No.01005・沖正哉〉

私の愛聴盤ならぬ愛蔵盤なるレコードは1951年、日本ビクターからのもので、ハイフェッツが一人で弾いているバッハのダブルコンチェルトである。解説の村田武雄氏によれば「ハイフェッツがどうして二つの独奏部分を同時に演奏録音したものか、恐らく録音上の操作によるものであろう。しかし寸分の狂いもなく、音量、音力上のバランスも完全に近いのには驚嘆せざるを得ない。ハイフェッツぐらいになると完全な状態を繰り返すことが可能なであろう」とある。当時、ヴァイオリンを弾いていた私にはちょうどこの曲を与えられたこともあって、繰り返し聴いたものである。

戦時中、電蓄なるものもあったが、1947年裸一貫で中国から引揚げたため中古の手巻き式の蓄音機を手に入れるのが精一杯、竹針の先を削りながら聴いたことも今ではなつかしい。もちろん現在のオーディオの音には比べるべくもないが、当時の音楽愛好家には、垂涎の一枚であった。

カザルス

カザルスへの旅

ブラードへの道は遠い。飛行機といくつもの列車を乗りつき国境を越え、ピレネー山中の小さな村にたどり着いた時、時刻表にも地図にも記されていない三十四年の自分の生き方そのものが、私のブラードへの道程であったことを確認した。

遠くに青くカニグーの山をのぞみ、ミモザの花に縁どられたカザルスの隠れ家、桃の木や白い小花の咲き乱れた野原、木もれ日を伴奏に林をぬぐう清流。たまさきこえてくる鳥たちのさえずりと、欲のない平和な光と色彩に包まれながら私はどこまでも歩いた。

カザルスが一挺のチェロを通して語りつづけた（沈黙も含めて）ものたちが、形を変えて息づいているブラード。

このまま自分の感受性を信じて生きていくといい——こんなささやかな答えにたどり着くために、夫も子どもも仕事もおいて、気がついたらスケッチ帖片手にリュックひとつで



special thanks to 伊勢英子、東芝EMI、河出書房新社

チェリストへの思いを綴る新企画。第1回目は1000人のチェロコンサートにも自ら出演された絵本作家、伊勢英子さんが綴るカザルスへの思いです。

来てしまっていた私の『カザルスへの旅』。一九八四年、春。

レッスン

チェロは突然天から降ってきた。

北海道で小学校の六年間バイオリンを習っていた。東京に引越してきてすぐ、ほんとの親の都合で習うことになったチェロ。どんな楽器でどんな先生なのかよくわからないまま、私は佐藤良雄先生に出会った。先生は、全身がこまごまと表情の十三歳の少女を温く迎えてくれた。『左手をま横からばたんと降ろしたあたりが第一ポジションです』『……』ドレミから教えるやり方とはあまりにちがう。『おかあさん、弓で弦を鳴らすことは簡単ではないですよ』先生は、私のレッスンのあと必ず十五分ほど母にも弓を持たせた。

声を荒らげたり不機嫌な表情の先生をみたことはなかった。いいところではほめ、できなところでは悲しそうな顔をなさる。レッスンのあとはカザルスから贈られたバイブをおいしそうにふかし、ユーモアたっぷりのお話のティータイム。

「人生では十二歳以前にすべてのことが行なわれている」は、先生の訳書『カザルスとの対話』の中のシャルル・ペギーのことばだ。私の十二年は、絵を描くことでようやく世の中とつながっていられた子ども時代だった。

佐藤先生はチェロを通して、十二歳までの私の中のかなかを、それとは気づかさずゆつくりとみつけ出そうとなさったのかもしれない。分かちがたい音と色の萌芽。

チェロ

チェロを弾く人の姿は、私には人が自分の影を抱きしめているようにみえてならない。



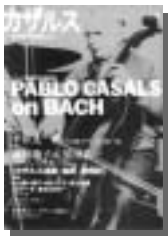
絵の世界を志した十八歳から弾かれなくなった私のチェロは、ある日ネックから折れてしまった。

レッスンに通えなくても、自分の色をさがすように自分の音が欲しかった。長い独習時代がはじまる。二代目のチェロは私には大き過ぎ、音色は重く、私の喋り方のように朴訥だった。結石の手術で入院した時、このチェロは表板の左腹、私の開腹手術と同じ位置に、十五センチもひびが入っていた。再びチェロを習いはじめたのは、ブラードから戻ってからだ。

三代目のチェロは、イタリア生まれの百歳だった。小ぶりで私の小指の負担も軽かった。占びてみえたが、楽器としては青年期に入ったところだときいた。弓を弦においたとたん、傷だらけの姿からは想像もできなかった、青空に吹きわたるトランペットのような明る響きに驚愕した。

このチェロは、カザルスが生きたほぼ同時代を、何人も奏者たちのいくつもの「物語」を歌いつづけてきたのだ。

絵を描くことが自分のことばに最も近いと信じてこられたが、チェロは、私を支え励ましつづけるもうひとりの私のような気がする。



伊勢英子さんの原稿「カザルス」は文藝別冊『カザルス』¥1200より転載したものです。

カザルスの名盤CD8枚が来年の2月にARRIリマスターングされ、東芝EMIより発売されることになりました。彼の芸術への探求を垣間見れるものとして期待できます。

●理事会よりお知らせ
会報の前担当理事、沖正哉氏が退任しましたことにより、次回より石岡三洋理事が会報担当となります。よろしくお祈りします。

編集後記

創刊号についてのアンケートを実施しましたところ、示唆に富んだご意見・ご感想をたくさんの方からいただきました。残念ながら本号で内容を掲載するスペースがありませんでしたが、好感をもってお迎えいただいたこと嬉しく思います。今後も貴重なご意見を糧に、豊かな紙面作りを目指します。さて第2号の発行です。今年はこのままで、鬼が笑いそうです。来年もよろしくお祈りします。

●ネットでも聴くヨーロッパのラジオクラシック音楽番組。遅ればせながら常時接続に替えられたことそんな楽しみも増えましたが、反応が早いので原稿や写真のやりとりも実にスムーズ。無事に2号めのお届けとなりました。今回は協会のイベントだけでなく皆さんの活動の数々をご紹介することができて何よりです。情報・投稿大歓迎！（神戸/田畑久美子）
★本業がなくてご舞いで会報作りが遅れに遅れました。写真を速達で送っていただいたり、原稿を期日通りに書いてくださったみなさん、ごめんなさい。マリアさんの東京公演にもアンコールです。ベリこみましたが、素晴らしい時間と音楽を共有することができました。伊勢さんには快く原稿の転載を快諾いただきました。ただ感謝です。（川崎/新 巳喜男）
★笠岡は非常に楽しいコンサートでした。石岡さん、中村さんをはじめスタッフの大変な奉仕の結果が、見事に成果を挙げたことは演奏にも打ち上げ会の盛況ぶりにもよく現れています。さて、第2号をお届けしますが、理事会の決議により編集の仕事の退任することになりました。協会のPRと皆さんの親睦を目標とするCELLISIMOです。絆を深めることに活用してください。（横浜/沖正哉）